

第25期 岡山県産業教育審議会 第2回会議（概要）
平成22年3月25日（木）13時30分～15時30分 県庁3階大会議室

1 開会

○挨拶（会 長）

- ・審議をしっかりとさせていただきたい。
- ・多くの方の発言をお願いしたい。

○挨拶（教育委員会）

- ・産業教育の充実にご尽力いただきありがたい。
- ・昨年度来雇用情勢が厳しい中、1月段階の内定率83%を超えた。
- ・引き続き相談の機会を設けたい。就職アドバイザー支援事業、高校生プログラム事業を計画している。
- ・学校と職場、生徒のコミュニケーション能力を育てることが大切。
- ・第1回の意見を素に実態調査を実施、2月には専門委員会を行った。そのことについての報告を基に幅広い意見をいただくことを期待する。

2 報告及び審議

（1）報告

i) 産業教育実態調査について（事務局）

- ・1月実施の実態調査について。200社に送付し、93社から回答を得た。高等学校91校から回答を得た。
- ・それぞれ業種別の回答を掲載している。学校からの回答をまとめている。
- ・審議資料の説明。

ii) 第1回専門委員会について（委員）

- ・各委員から現状と課題の説明

（2）審議

事務局説明

i) 「新たな時代に対応したスペシャリストの育成のために」

（委 員）専門的能力は重要であると感じていたが、アンケート結果からはそういう能力より、基本的なコミュニケーション、あいさつ、身だしなみなどを求めていることが感じられた。昨今の就職状況が厳しい中、社会人としての基本的能力をしっかりと身に付けることが必要だと思う。企業内でもそういう方を育てたいとしているのか。柔軟に対応できる生徒をも求めていると感じた。

（委 員）企業側も、高校3年間で専門性が完結することを求めている。スペシャリストを目指す生徒を求めている。企業内で伸びる生徒を求めている。見所があつて採用したのに心がおれて（挫折して）辞めてしまう学生がいる。スペシャリストの価値観を植え付ける機会があればいい。

（委 員）就職面接会を見ていると、介護医療の分野は人が集まらない現状がある。新たな時代とは、医療福祉を必要とする社会になると思う。企業が求める人材もあるが、高齢化社会に対応できる生徒を育成する、もしくは人材を育成するという視点も必要だと思う。人材不足に岡山県としてどう対応できるかをスペシャリストの中で対応できないか。津山県北で求人しても人が集まらない。人材供給システムも課題となると思う。

（委 員）新たな時代とはなんだろうか？高度成長してきた中で、今までとは違う就職状況があるので、そこに対応できる人材を育てないといけない。在学中に身に付けていただきたいのは学力である。日本の仕事はどういう事で成り立っているか？エネルギーがない中で成長してきたのは外国のニーズに応じてきた。収入の源泉の素が変わってきて、BRICsが中心で経済成長してきている。国内マーケットを考えてみると、高齢者が増えてきた。高齢者マーケットが増えたところ

にどう対応するかが新しい時代だと思う。新たな仕事は今まで多くの人が就職していたところではないところへの就職を考えていかないといけない。今までと同じように幸せで大過なく過ごしたいと思うのが多くの考えだが、そう考えていては仕事が無いので、発想を大きく変えないと対応できない。高度成長時代の延長で考えてはいけない。

- (委員) 技術が高度化する中それを追っかけていては間に合わない。基礎的な部分が下がってきているとのことで、将来学び続けることが低下しているのではない。生涯学習の観点で考えるべきことが「将来のスペシャリスト」の考え方である。
- (委員) 中学校に求められている力が変わってきているのは確かである。総合的な学習の時間は、問題解決能力の育成、理数の力の育成、コミュニケーション能力も言語活動の充実で盛り込まれている。
- (委員) 学校で良い成績を取れば就職も安泰、という時代とは変わった。成績だけでははじかれる世の中。勉強すればつながることが保証されない時代。成績と就職は別物だという意味では不安定な世の中になったと思う。勉強すれば就職できるという仕組みづくりも必要だ。

①就職環境の変化に対応した専門教育の在り方について

- (委員) 一瞬にして就職状況が変わった。中長期で見ると採用だが、短期的に見ると控えめになっている。就職難だけに気を取られると違った見方になる。
- (委員) 就農することにより、30才を超えて生き甲斐を見つけた人も多い。自分で努力すれば満足を得られる仕事は何か？で、就農を選ぶ人が多い。基礎的な技術、基礎的教育をしっかり身に付けて、将来やる気を持って続ければ、どのような職種の中でも生き甲斐が見つけられる。「環境」と「食」が大きなテーマ。100年のスパンで物事を考えないといけない時代である。温暖化でおいしいお米は北海道でとれる時代。新潟ではお湯の中で育つ稲の実験をしている。100年先を見据えた教育を考えないといけない。1次産業の分野では、両手を広げやる気があればいつでも飛びこんでいただきたい。県内に大学を設定している学長が訪ねてこられ、高校卒業した後に農業を学習できる場が欲しい、と話しをしてくれた。2次産業と1次産業は様相を異にしている。それぞれに合った就職指導が必要であると思う。
- (委員) 専門委員会の概要に興味を持った。高度な資格や専門知識より、この仕事について、興味を持ってやりたいという生徒のニーズが高くなっていると思う。各学校がインターンシップに取り組んでいる。その取組具合によって仕事への考え方は変わってくると思う。インターンシップを経験することにより自分が目指す仕事、職業がインプットされ、子どもたちの向上心が上がると考えている。
- (委員) 学校によって取組具合は違う。中学校は2年生で約100%実施。勤労観職業間が一番の主旨だと思う。2年生では1年間以上学んだことにより専門性が深まっているため、どの程度学習したことが使えるか、どのようなところで専門性が生かされるのかを確かめることが可能であると思う。その中で、勉強が足りないとの自覚も芽生える。職場へ行くと幅広い年齢層とのつきあいになり、コミュニケーション能力の重要性を感じる場となっている。各学校でどの学年で行くかでねらいが変わっているのが現状である。
- (委員) スペシャリストにつながる教育が大切である。自分たちと社会がどうつながっているかがわかる教育が大切である。インターンシップをどう活かすかが大切。専門科の講師招聘も良いと思う。ただし予算が厳しい。生徒の目が輝く、教室だけの授業ではない教育環境を広げていく必要がある。
- (委員) 新入社員を受け入れて指導をしている。あいさつ・礼儀が一番である。あいさつを幅広く捉えていただきたい。上司、先輩との中でのあいさつはできている。しかし、会社全体、他部署どこでも、もしくは近所でのあいさつを学ばせ

ていただきたいとの要望や必要性がある。出前講座であれば安価でコミュニケーション能力育成システムもあるので活用願いたい。

(委員) 面接会では、一通り回るが、その後は動こうとしない。目的に対する執着心に欠けているという感じを持つ。踏み込んで就職を決めようというところが不足している。執着心を小さいときから養うことが不足している。

(委員) 最近は小さいときから“よい子”を育てようとする風潮ある。“よい子”であるふりをすることも知らずに学んでいると思う。教えるのではなく自分で物事を考えることが大切。目標達成の前に、チャレンジすることに喜びを感じる事を体験させることが大切だ。

(委員) 新入社員教育のプログラムを変えた。あいさつ、コミュニケーションがしっかりできる原点に戻った。知っている人との間ではできるが、知らない人とは口の利き方を知らない。人としての教育も並列で行い、両輪で行う必要性を感じる。

(委員) 他のアンケートでは、対人能力は専門高校の生徒の方が高かった。普通科では部活動の中でしか学ぶ場面がない。専門高校では、集団で頑張る場面もあり、様々な機会がある。

②産業界と連携した地域産業の担い手育成の在り方について

(委員) 以前農業普及員が高校の先生になる交流人事があったと思う。専門の力を借りた交流があれば現場力が上がる。農業士を学校へ招き、夢を抱く授業の展開をしていただきたい。農業だけでは地域は発展しない。農商工連携として、加工、コマーシャルベースに乗せる協力をしないといけない。桃太郎ブドウのネット販売などの例があるので、様々な産業での可能性を持てる教育が欲しい。

(事務局) 交流人事は4・5年実施したが、6年ぐらい前に休止された。若い教員も少なくなったので今休止している。現在は専門研修として1年間研修に出ている例がある。

(委員) 若い人が将来に夢を持てる教育に期待したい。

(委員) インターンシップの制度は良い。若いうちに経験することは重要なことだ。外食産業で、ファーストフード店などで働く子は明るくててきぱきしている。アルバイトは難しいのか?

(委員) 学校で違いはあるが、アルバイトは許可制が多いと思う。家庭での経済状況によってはあるバイトをしないと生活できない生徒も年々増加してきている。勉強と部活の後に行うとなると、夜10時近くになる可能性があり学業に影響が出るため、必要がなければ辞めさせている。

(委員) 安全、勉強のためとの理由もわかるが、社会勉強としてのアルバイトは奨励できないか?

(委員) 高校生はまだ発達途中であるので、お金を稼ぐことと学業とのバランスが大切。限られた時間の中で何を優先すべきか、時間的に不可能なこともある。しかし、専門委員会の時にも同様な意見が出ていたので、話の方向によっては検討できる余地がある。

(委員) 職場体験を企業の協力を得て実施している。社会に触れる良い機会である。なぜあいさつが必要か、を実感できる場である。子どもが思い浮かべる仕事は本当に狭い。親が介護関係の職にあるため介護職を選ぶ、など短絡的なつながりしかなく、イメージが貧弱である。学校では体験活動などで働く世界を広く知ってもらふ必要がある。世界で活躍している企業の話や、地場産業の話のを伺える機会を与えることも大事である。

(会長) 私は海外へ出る機会があり外国の教育が気になる。国を挙げてしっかり教育が行き届いているところはあいさつももしっかりできる。地域でも子どもに声をかけることをしていると、最初は声が小さかったが今では声が大きくなってきた。地域社会での教育の成果だと思っている。それが学校の中にも逆に広がっ

ていくのではないかと期待する。地域社会の協力は必要だ。専門教育は世の中の変化に対応して専門分野が増えてくる。太陽光エネルギーなどが最近では良い例である。世の中の社会構造の変化に合わせて変化する。それに対応していかないといけない。未就職者にインターンシップをさせる機会がある。しかし手を挙げてチャレンジしようという若者が少ない。様々な制度を活用できたらよい。専門高校生は、目的意識を持って専門教育を受けているので、多くの企業を回って気に入ったところへ行けるように制限を緩和できないのだろうか、またこういう可能性はあるか？

(委員) その他の中に小中学校との連携、アピールが少ないとの意見があった。高校進学の際に、第1に学力で、第2に将来を考えて選んでいるのではと思うが、本来は1と2は逆にならないといけない。高校でも就職と進学を選ぶケースで、先生、保護者がどうアドバイスをするか、どういう機会を設けるかが大切である。実際にはやっていると思うが、十分ではないということによいか。

(委員) 全体指導と個人面接をしてはいるが、一人一人のニーズが多様化してきているので、様々な機会を捉えて多くの教員が関わる必要があるとの提言を専門委員会で得ている。担任だけが関わるのではなく、より多くの関係した教員が様々な場面で関わるということだ。

(委員) 先生方のアドバイスは大きいと思う。保護者との関わりも大きいと思うので、時間が限られていると思うが、ぜひ充実させていただきたい。

ii) 専門委員会での調査研究事項について

今後の審議日程について (事務局)

・ P6第3回審議会までに専門委員会を2回挟みたい。骨子案につながるような方向性の示唆があればいただきたい。

(会長) 委員から方向性があればどうぞ。

(委員) 学習面で育成できる力、学習面以外で育成すべき力など、地域産業の担い手育成として、地域の産業界との連携の在り方を専門委員会の中で研究したい。

(3) その他

・ 特になし。

3 その他

・ 特になし。

4 閉会

○挨拶 (副会長)

・ 就職対策が様々なされていると思うが、人生失敗は経験だと思う、人ができない経験は大きな財産になる。

・ 中長期的に見て時代が明らかに変わっているのに、時代に合わせた職業人を如何に教育できるかが大切である。同じ時代の時は如何に同じようにするかが大切であったが、環境が変わる場合は横並びではいけない。「よりうまく」ではなく、変わる時代には「かわったこと」で対応しなければならない。

・ 地域間競争に勝つためにも、今までに増して大変重要な審議だと思う。